

# 映像で見る日光いま・むかし

## 荒澤電車鐵橋

日光電気軌道株式会社に  
よって明治四三年(一九一〇)  
日光・岩の鼻(現清滝)間八キ  
ロメートルの軌道の運転が開  
始され、日光の交通は大きく  
変わりました。

それまで牛による牛車軌道  
が、下河原(現安川町)から植  
物園裏を経由して、清滝に通  
じていたのに対し、これを廃  
止し、新しい軌道電車が、安川  
町・四軒町・田母沢御用邸前・  
花石町を通り荒沢を渡り、割  
山を経て清滝へとでました。  
当初は精銅所の貨物が輸送

の主体で、乗客は便乗とい  
かたちで電車を利用して  
ようです。一日の往復回数は  
二四回。清滝方面に約四二六、  
日光方面に三五分を要してい  
ました。

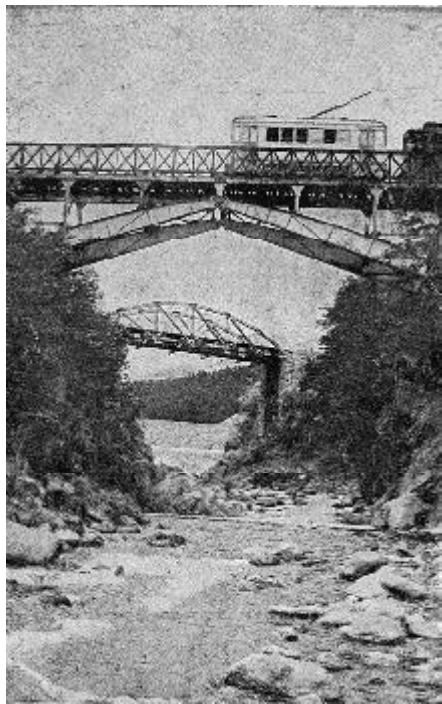
大正二年(一九一三)に、岩  
の鼻・馬返し間の軌道二・二キ  
ロメートルが延長され、年々  
増加してゆく観光客の輸送に  
も大いに活躍するようになり  
ました。

その後自動車の普及や観光  
道路の発展等により、通学や  
通勤にと市民に親しまれた軌

道電車は昭和四三年(一九六  
八)廃止されました。

(日光市史下巻)

写真は明治期末頃の、荒澤  
電車鐵橋の絵葉書です。この  
頃はまだ歩道が下にあり、植  
物園裏を経由して清滝に至る  
道も利用されていたようです。  
現在は国道一二〇号線が割  
山を通り、かつての電車軌道  
の鉄橋は新緑に包まれ、上水  
道の水管橋として利用されて  
います。



明治期末の絵葉書(日光市立図書館所蔵)

「荒澤電車鐵橋ト下八歩道」



現在の安良沢橋周辺

### 善意の寄付

日光交通安全協会女性部会(女  
性ドライバークラブ)からバレン  
ティンチャリティー益金の一部が  
寄付として日光市へ贈呈されまし  
た。ありがとうございました。



黄綬褒章(業務精励)  
佐藤節夫(七九歳)  
日光市滝ヶ原三九七二



藍綬褒章(統計調査功績)  
阿部一二(八七歳)  
日光市清滝四丁目  
六五

このほど、平成十六年春の叙勲が発表され、次の方が受  
章されました。(敬称略)

おめでとうございます

## 平成16年 春の叙勲